

夏は食中毒の多い季節

予防はまず台所の清潔

八月五日から十一日までは食中毒予防週間です。昨年は食中毒発生のようすは年間の食中毒発生のようすは全国で事件数一千九百件、患者数三万八千人、三十三年以降は毎年三万人をこえる患者が発生しています。季節的には全体の約九割が六月から七月にかけて発生し、とくに七、八月に多く発生しています。こしも一月から五月はじめまでに四千七百人の患者がでており、とくに会社工場、学校などの集団給食による患者が多くなっています。

▼食品別にみた患者の割合
〔単位パーセント〕

魚介類	四九・二
二・五卵類	三・六穀類
一九・七	病原性微生物

病原性微生物の割合についてみると、細菌によると、

油類の火災に注意

普通火災より被害が大

最近、川崎の昭和電工爆発事故、新潟地震における昭和石油の火災、品川大井の倉庫爆発事故と危険物に基因する修事が一つで発生しています。

我孫子町にも危険物（油類）が原因となって火災になつた例が二、三あります。が、いずれもその量がすぐなかつたため大事にはいたりませんでした。

大量の危険物を貯蔵または取り扱っているところで火災になりますと前者のように大被害をこうむることは当然のことと思われます。そこで常備部では、我孫子町における危険物の安全管理制度において、危険物の名数等を事前に把握し、現場で適確な判断ができるようになります。一方、化学車両、機械、器具などにより、車前計画を樹立しておきます。普段火災の場合もそうで、普段油による火災のときすが、すみやかに二九番をおこさないように指導す

いもち病各地で発生

薬剤散布で予防を

（第三種郵便物認可）

いもち病、憩息病、瘧疾

発生が予想される地区で



い。

有機水銀剤、ブラエスMの散布は粉剤の場合はアルールあたり三キログラム液剤の場合は所定の希釈液を百リットル散布してください。

い。

い。